

研究結果報告書

平成 31 年 2 月 25 日

<研究課題> 訪日外国人旅行者に向けた交通ルールの効果的な周知方法の開発

代表研究者 帝京大学文学部社会学科 准教授 浦野 慶子

【まとめ】

訪日外国人旅行者に対する交通安全対策の構築が急務の課題となっている。本研究では先行研究を分析したうえで、日本旅行経験のある外国人を対象に交通に関する困難経験について調査を行った。調査結果を踏まえた今後の課題として、日本語のみが表記された道路標識から英語併記標識への切り替えをより一層、進めるだけでなく、日本に特有の危険な交通慣習についても多言語で広く周知していく必要性が挙げられる。

1. 研究の目的

訪日外国人ドライバーの交通安全対策が喫緊の課題となっている。ビジット・ジャパン事業（Visit Japan Campaign）の開始以降、訪日外国人旅行者数は増加傾向が続き（観光庁，2018）、近年では、滞在中にレンタカーを利用する人の割合が増えている（国土交通省，2017）。レンタカー利用者全体では事故件数は減少傾向が見られるものの、外国人利用者の事故件数は増加している（全国レンタカー協会，2017；内閣府，2018）。これを受けて、国土交通省は、訪日外国人ドライバーの運転リスクを分析し、エビデンスに基づく事故予防対策を講じようとしている（国土交通省，2017）。しかし、現時点では、問題解決に向けた研究が十分に蓄積されていないと言わざるを得ない。そのため、本研究では、訪日外国人旅行者の交通事故を予防するために、どのような政策を構築する必要があるか、交通安全情報の効果的な周知方法等について検討した。

2. 研究方法と経過

①国際観光・国際交通安全に関する文献・調査結果等を収集して先行研究を検討し、②文献調査の結果を踏まえて、WEB 調査における調査項目を決め、日本旅行経験のある外国人を対象に WEB 調査（英語）を実施した。

3. 研究の成果

最初に、先行研究を検討した。先行研究の中でもジェフリー・ウィルクス（1999）は、シ

ドニー夏季オリンピック・パラリンピックが開催される前年に、“International Tourists, Motor Vehicles and Road Safety: A Review of the Literature Leading Up to the Sydney 2000 Olympics”と題した論文を発表しており、オリンピック・パラリンピック等の国際大会は国際交通安全研究が進展する契機となることが確認された。一方、日本では、就労等で長期定住する外国人が増加するにしたがって、外国人向けの交通安全教育のありかたについて議論されるようになり（青山，2001）、さらに、訪日旅行中にレンタカーを利用する外国人ドライバーが増加したことによって、訪日外国人旅行者の交通安全対策が喫緊の課題となった過程を明らかにした。

先行研究を踏まえ、本研究では、現在、日本に短期／長期滞在している人も含め、これまでに日本を旅行したことのある外国人を対象に、日本での交通に関する困難経験について複数選択が可能な選択肢および自由回答欄を設定して WEB 調査を実施した。具体的には、日本で自動車を運転したことがあると回答した調査参加者に対しては、（1）レンタカー時のコミュニケーション、（2）道路標識、（3）交通情報、（4）通行料金、（5）左側通行等の 10 項目について、ドライブ中に困難を覚えたかどうかについて調査し、自由回答欄も設けた。一方、訪日滞在中の運転経験はないと回答した参加者に対しては、（1）道路標識・道案内、（2）横断歩道において一時停止をせずに進入してくる自動車等の 5 項目について、旅行中に困難を覚えたかどうかについて調査し、自由回答欄も設けた。また、性別、年齢層、国籍、将来の日本での自動車利用意向についての質問項目も設けた。

WEB 調査の実施にあたって、本研究ではエクスポート・ジャパン株式会社に委託した（japan-guide.com, 2018）。調査は、2018 年 8 月 6 日から 22 日まで行われ、124 名が調査に参加し、101 名からの有効回答が得られた。ここでは 20 歳以上の有効回答 98 名について、現時点での大まかな調査結果を述べる。

有効回答者 98 名のうち、6 割は日本で自動

車を運転したことがあると回答した。本研究のサンプルサイズは小さいため、WEB 調査の結果を単純に一般化することはできないが、日本で自動車を運転したことがあると回答した調査参加者は、ドライブ中の困難経験として、交通料金が高すぎる、制限速度が低すぎる、レンタカー時のコミュニケーションが難しかったこと、道路標識が日本語表記のみであったこと等に関する選択肢を選んだ調査参加者が多かった。実際には制限速度が守られていない点を指摘する声もあった。一方、一般社団法人日本自動車連盟(JAF)の調査(2016;2017)を踏まえ、「横断歩道で一時停止せずに進入してくる自動車」の危険性について指摘する調査参加者が多いのではないかと予想されたが、予想に反して、それに関する選択肢を困難経験(の一つ)として選んだ調査参加者は少なかった。また、左側通行に関する選択肢を選んだ調査参加者も少なかった。先述したように、本研究のサンプルサイズは非常に小さいため、この結果を単純に一般化することはできない。本調査の結果では、横断歩道で一時停止せずに進入してくる自動車に関する選択肢を選んだ調査参加者は少なかったものの、日本では、そうした危険な運転慣習と関係しているのではないかと考えられる事故が発生していることは事実である。そのため、訪日外国人旅行者に対して日本における危険運転の特徴について周知し、国内外にリスクとして認知される必要がある。

4. 今後の課題

引き続き、調査データの分析を進める。先行研究の検討および WEB 調査の結果を踏まえ、質的調査も実施し、分析の精緻化を図る。訪日外国人旅行者は増加の一途をたどっており、本研究課題の重要性はより一層、増している。喫緊の課題ではあるものの、未だ十分に開拓されていないテーマの研究に対する熱意を評価していただき、研究助成を賜ったことは、本研究課題を前進させる大きな原動力となった。貴財団の研究助成に改めて感謝申し上げる。贈呈式でいただいた励ましのお言葉を心に刻み、今後も継続して調査を行い、交通安全の向上に資する研究を発展させていきたい。

5. 研究成果の公表方法

本研究の成果については、和文・英文の学術論文として発表する予定である。

引用・参考文献

青山彩子 (2001) 解説 外国人に対する交通安全教育, IATSS Review, 27(1), 45-53.

一般社団法人 全国レンタカー協会 (2017) レンタカー事業の現状について

<http://www.mlit.go.jp/common/001195117.pdf> (Retrieved September 30, 2018)

一般社団法人 日本自動車連盟 (2016) 交通マナーに関するアンケート調査

http://www.jaf.or.jp/eco-safety/safety/environment/enq/2016_06.htm

(Retrieved September 30, 2018)

一般社団法人 日本自動車連盟 (2017) 信号機のない横断歩道に関するアンケート調査

http://www.jaf.or.jp/eco-safety/safety/environment/enq/2017_06.htm

(Retrieved September 30, 2018)

Wilks, Jeffrey (1999) "International Tourists, Motor Vehicles and Road Safety: A Review of the Literature Leading Up to the Sydney 2000 Olympics" Journal of Travel Medicine, 6(2), 115-121.

観光庁 (2018) 訪日旅行促進事業 (訪日プロモーション)

<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kokusai/vjc.html> (Retrieved September 30, 2018)

国土交通省 (2017) 訪日外国人観光客レンタカーピンポイント事業対策について

http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_000882.html (Retrieved September 30, 2018)

国土交通省 (2017) 平成 29 年度版観光白書

japan-guide.com (2018) インバウンドリサーチ <http://www.japan-guide.co.jp/research/>

(Retrieved September 30, 2018)

内閣府 (2018) 平成 30 年度版交通安全白書

以上